

事業計画書

① 団体名	NPO法人 保育サポート「あい・あい」
② 事業名	次世代へ農業の魅力を伝えるプログラム
③ テーマ区分	*いずれかにチェックし、指定テーマの場合は番号を記入 <input checked="" type="checkbox"/> 指定テーマ (番号: 2) <input type="checkbox"/> 自由テーマ
④ 補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック <input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目 <input type="checkbox"/> 3回目(経過措置) <input type="checkbox"/> 4回目(経過措置)
⑤ 現状及び課題	COVID-19の影響で子ども達の生活も一変した。学校行事や地域イベントが中止となり、この二年ほど活動が制限され、地域の人々と関わる活動ができていない。学生の子どもと関わるボランティア活動においても、機会が減っている。感染予防対策をしっかりと整えた環境で、もっと地域に出て活動する行事や体験が必要である。
⑥ 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・長い期間、活動制限などにより我慢をしてきた子ども達に、屋外で安全に楽しく過ごせる活動の場を提供すること。 ・農業体験を通して、農業とそこに携わる地域の方々と触れあうこと。小学生と高校生、大学生と大人の世代間交流の場。 ・コロナ禍で活動の機会が減っている学生ボランティアに活動の場を提供し、ボランティア育成に貢献する。 ・桃農家の話や農業経営者との座談会から、農業や地域を身近に感じ、さらには総社から世界につながる魅力ある分野であることに興味を持ち、将来の職業選択の一つになることを目指す。
⑦ 事業内容	<p>事業項目1 小学生対象の農業体験</p> <p>○桃の圃場で、自然の中で土や草木に触れながら育てる楽しみや収穫の喜びを味わう経験をする。親子で参加することによって子ども自身の気づきや発見を阻害されないように、子どものみの体験活動とする。子どもが主体的に参加し、体験したことを家族に共有し、さらに学びを深められるよう、袋かけをした桃の生育状況を、桃農家からSNSでタイムリーに発信することにより、桃に対する関心や愛着を深めて収穫に臨む。事前アンケートや桃に関する理解度を確認するクイズも実施する。</p> <p style="text-align: right;">(全3回)</p> <p>※対象…県内の小学生(5年～6年) 定員20人(事前申し込み) ※募集方法…総社市内小学校(15校)へ募集チラシ配布 県内その他の地域へ募集チラシ送付 関係団体のSNS(HP、Facebook、Instagram)への掲載 ※実施場所…総社市内の桃の圃場、直売所、加工場など (きびじ農業後継者クラブ、学生ボランティア等の協力)</p> <p>○家庭の事情等で、様々なイベントに参加の機会が少ない困窮家庭の子ども(総社市学習等支援教室「ワンステップ」)を対象に桃農家の方からの話と桃の収穫体験から、ワンステップの先生方(元教員)や仲間と地元の農業について学ぶ。(全1回) 上記とは別日程(収穫可能な水曜日の放課後)で実施する。 ※対象…総社市学習等支援教室「ワンステップ」参加の小学生 ※実施場所…総社市内の桃の圃場</p> <p>事業項目2 学生ボランティアの受け入れ(農業体験)</p> <p>○農業体験で小学生のサポートをすることにより、学生ボランティアの育成をする。主役である小学生の体験がより良くなるように効果的な</p>

	<p>声かけや接し方の大切さを自発的に学ぶ機会にする。また、地域の大人と接することで、さらに幅広い世代間交流ができる。桃の圃場でのボランティアをきっかけに農業の魅力を感じ、地元農業への見識を広げ、座談会への参加につなげる。</p> <p>※対象…県内の大学生、高校生（各回20人）</p> <p>※実施場所…総社市内の桃の圃場、直売所、加工場など</p> <p>※募集方法…大学と高校のボランティア部やボランティア担当の先生や総社市社会福祉協議会のボランティアセンタ等を通して募集</p>
	<p>事業項目3 地元の若手農業経営者が現在の農業について学生と語る座談会</p>
	<p>○「地域の方に助けてもらったことを今度はさらに若い世代へ返していく」という想いの、きびじ農業後継者クラブの地域への貢献活動の一つとして、桃の圃場で、地元の若手農業経営者が学生に向けて、リアルな農業について伝える座談会を開催する。若い世代がIターン、Uターン、非農家から農家に転身する具体的な事例、海外市場の拡大状況など地元の魅力ある農業について語ることで、農業に対するマイナスイメージを変え、興味、関心を高める。将来農業に携わろうと考える学生はもちろん、他の業種を目指す学生にとっても社会を知ることにつながる。</p> <p>※対象…農業体験の学生ボランティア、別に募集する県内の大学生、高校生（計30人程度）</p> <p>※実施場所…総社市内の圃場</p> <p>※募集方法…県内の大学、高校に案内チラシを配布または送付関係団体のSNSへ掲載</p>
	<p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応</p>
	<p>日程や場所の変更、内容を厳選するなど、可能な限り子ども達や学生の体験は実施する方向で検討・調整する。</p>
<p>⑧事業の条件及びアピールポイント</p>	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <p>「コロナ禍で長い間活動を制限されてきた子ども達に、楽しく実りある体験を」という「あい・あい」の想いから、きびじ農業後継者クラブと備中県民局との協働により、県内の小学生対象の農業体験が可能となった。</p> <p>きびじ農業後継者クラブ（以下「後継者クラブ」とする）は、農業を通じて長年地元でボランティア等の社会貢献活動をしている団体であり、その協力により、小学生には実体験型の学びの場を提供することができる。また、「あい・あい」の学生ボランティア養成の実績により、大学生と高校生には子どもに関わるボランティアの場を提供することができる。さらに若手農業経営者と学生の座談会は、他に例のない貴重な機会となる。</p> <p>また、イベントとして3月に実施される、きびじ農業後継者クラブ主催による農機具の写生大会に協力し、農業の魅力発信を進めていく計画をしている。</p> <p>県民局の協力により、広域へのPRが可能となり、事業の効果拡大が期待できる。</p> <p>備中地域への波及効果</p> <p>令和5年1月頃に、後継者クラブの代表者が倉敷地域の青年農業者に取組事例を発表する機会があり、小学生や学生と若手農業経営者との交流におけるモデルとして地元の農業の魅力や将来性を広く発信することができる。</p>

	<p>県民局との協働による相乗効果</p> <p>事業をよりよくするための助言により、困窮家庭の子ども達が体験できる機会を取り入れることができた。また、PRに協力していただくことで総社市外の幅広い地域の方にも周知できる。</p> <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <p>今までの子どもを対象とした事業を実施してきた経験をもとに、幅広い地域に参加者の募集をかけることができる。 当団体が、若手農業経営者と子育て世代や学生との架け橋となりお互いの活動の幅が広がる。</p>
<p>⑨今年度に期待される成果・効果 (短期アウトカム)</p>	<p>県民（対象者）</p> <p>桃の圃場に出かけ、若手農業経営者から直接話や指導をしてもらうことで、地元の農作物が優れていることを知ってもらうことができる。小学生や学生に農業への興味、関心を持ってもらうことができる。 小学生、学生、大人の幅広い世代間交流の機会となる。 小学生の夏休みの自由研究や自主学習のテーマにすることができる。</p> <p>団体</p> <p>事業に参加することで、「あい・あい」という子育て支援をしている団体を知らなかった世帯にも、広く認知してもらえる。 事業を通して、他団体とのつながりが深まる。また、新たに地元の他団体、他業種とつながることができる。</p> <p>備中地域</p> <p>子育て世帯と地域の若手農業経営者が関わりを持つことで、子どもの健やかな育ちにつながる。参加者の反応を直接見聞きすることで若手農業経営者のモチベーションアップにつながる。 世代間交流による学生ボランティアの育成をする。</p>
<p>⑩将来的に期待される成果・効果 (中・長期アウトカム)</p>	<p>県民（対象者）</p> <p>事業の参加者が、地元の農業や資源の魅力に気づき、将来地元で働いたり、住み続けたいと考えたりするきっかけになる。地域の子どもを地域で育てる意識を持つ大人が増えることにより、地域の魅力向上につながる。</p> <p>団体</p> <p>農業体験に参加した小学生が、将来学生ボランティアとして活動に参加してもらえる。</p> <p>備中地域</p> <p>総社市以外でも同様の取組が行われ、若い世代に農業の魅力を伝えることにより、将来、新規就農者や農業の担い手が増えるきっかけ、地元の農業や産業に携わるきっかけにつながり、ひいては岡山県の農業産出額やもも輸出額の増加につながることを協働の備南広域農業普及指導センターは期待する。</p>

⑪今年度の 成果目標と 評価指標	成果目標 1	県内へのPRによって、参加者を集める。		
	評価指標・測定方法	数値目標		
		現状	今年度	令和5年度
	農業体験、学生ボランティア、座談会への参加人数の達成度（定員に対する割合）	0	農業体験100%、学生ボランティア80%、座談会80%	農業体験100%、学生ボランティア100%、座談会100%
	成果目標 2	収穫の喜びや流通のしくみを知ることによって農業の魅力を感じる		
	評価指標・測定方法	数値目標		
		現状	今年度	令和5年度
	小学生と保護者対象の理解度アンケート（5段階評価で4以上の割合）	0	80%	90%
	成果目標 3	座談会にてリアルな農業の魅力と将来性を次世代へ伝える		
	評価指標・測定方法	数値目標		
現状		今年度	令和5年度	
学生対象の満足度アンケート（5段階評価で4以上の割合）	0	80%	90%	
⑫中・長期的な 成果目標	農業体験・座談会を通して、農業のイメージが変化し、将来の職業選択の一つとして捉えられる。地元の魅力を知ることによって郷土愛が育まれる。			
⑬事業展開の 予定	令和4年度は桃で企画をしているが、総社市や備中地域の魅力ある農作物を来年度以降の農業体験へつなげていきたい。 農業体験・座談会の対象をさらに拡大していきたい。			
⑭役割分担	団体 事業対象への募集・企画・運営・実施。			
	県民局 本事業への助言・PR。			
	その他の連携・協力団体（組織・団体名： きびじ農業後継者クラブ）			
	後継者クラブへの協力要請（農業体験の受け入れ農家・座談会の講師の選定、アンケート・クイズの作成、桃の圃場の安全確保）			

日 程 計 画 表

年月日	事業内容	場所	規模等
R 4 4月	担当者打合せ（日程調整など） 参加募集のチラシ作成、配布、送付 各団体のHP、Facebook、Instagramへ掲載 参加者の決定 学生ボランティアの募集（岡山県立大学、総社高校、総社南高校、高松農業高校他）		チラシ 約4000枚 チラシ 約200枚
6/4 (土)	〇体験1回目（桃の袋かけ） 予備日6/5（日） 農業経営者の方の話 体験	総社市内 桃の園場	小学生 20人 学生ボランティア 20人
6月	担当者打合せ（振り返り、次回の詳細） 大学生・高校生対象座談会募集 （県内の大学、高校）		チラシ 約300枚
7/2 (土)	〇体験2回目（早生品種の収穫）予備日7/3（日） 農業経営者の方の話 体験	総社市内 桃の園場	小学生20人 学生ボランティア20人
7月	〇困窮家庭の小学生（ワンステップ参加児童）対象 の農業体験 担当者打合せ（振り返り、次回の詳細）	総社市内 桃の園場	困窮家庭 の小学生 10人
8/7 (日)	〇体験3回目（産直市場等の見学） 農業経営者の方の話 市内の産直市場や選果場の見学（貸し切りバスにて移動）	総社市内	小学生20人 学生ボランティア20人
10月	《地元の若手農業経営者が現在の農業について学生 と語る》 海外への輸出や若手の育成を手がける若手農業経営 者グループの話を聞く会（座談会） 対象：高校生・大学生	総社市内	学生30人
11月	事業振り返り、次年度に向けての会議		